

# 雷電褐鐵鑛床調査報告

## On the Limonite Deposits of Raiden, Shiribeshi province.

齋 藤 昌 之\*

(Masayuki Saito)

### Abstract

This limonite deposits is situating near Asahi-onsen, about 12 km south-west of Iwanai town.

The basment of this area is propylite. Covering unconformably this propylite, which is occasionally influenced storongly by the hydorochemical effect, pyritization, the Raiden volcanics such as agglomerate, tuff and andsite lava are widely developed ; the former is miocene and later pleistocene in age.

The four outcrops of deposits are found along upper and middle course of Yunai river, surrounding the Asahi-onsen. Total ore reserve is presumed 50,000 tones, and iron content of the ore shows 54~55 %.

### 目 次

- |            |            |
|------------|------------|
| ま え が き    | 3. 地質および鉄床 |
| 1. 位置および交通 | 4. 品位および鉄量 |
| 2. 沿 革     | 5. あ と が き |

### ま え が き

この報告は、後志支庁・岩内郡岩内町・同郡島野村の希望により、埋蔵鉄量を算出する目的で、昭和25年(1950年)10月に2日間で行った調査結果をとりまとめたものである。

ニセコ道立公園のなかには、ほうぼうに褐鉄鉄のあることが知られており、<sup>イソナツブリ</sup>岩雄登を中心とした地帯では、3, 4 かしよで探掘されている。だが、公園の西のはじにあたる岩内・磯谷など、日本海よりの地帯では、かなりの褐鉄鉄があるといわれながら、実態は明らかにされておらない。

\* 地質第1課

筆者の調査後日鉄鉄業株式会社が鉄区を売却した。岩内から磯谷に通ずる海岸道路が完成すれば、開発が本格的に考えられるはずである。

戦後、道南漁村の疲弊は目をおおうものがあるが、この地域も例外ではない。このようなわけで、地下資源の実態をつかんで、開発できるものは開発し、少しでも潜在失業者を吸収したい。ということが、強い要求とさえなっていた。たまたま、岩内から磯谷をむすぶ海岸の道路が、観光用として開さくされる気運がみなぎってくるにしたがつて、支庁や町村の地下資源にたいする期待も、いよいよ大きくなつて、今度の調査が行われることになつた。

調査にあつては、後志支庁の松浦潔氏ほか岩内町役場・島野村役場のかたがたから、いろいろと便宜を与えられた。厚くお禮をのべたい。

## 1. 位置および交通

鉾床は、岩内郡島野村朝日温泉を中心として、ニセコ道立公園の西端雷電山（標高1,200 m）の西麓に胚胎している。

岩内町から直距離にすると、西南方約12 kmにあつているが、なかなかたいへんなところである。岩内駅から当別川の河口まで約4 kmの間には、バスがかよつている。だが、あとの約10 kmをゆくには、山道と海岸道の2つがあつて、どれもやつと歩けるていどである。山道のほうは、当別川をさかのぼり、標高630 mの熊野峠をこえて朝日温泉にゆく準地方費道路である。この道路は、昔この地方が鯨の千石場所として栄えた頃、岩内から江差に通ずるもつとも重要な道路であつたといわれている。だがいまでは、まったく荒れほうだいに荒れて、準地方費道路といいながら登山道とちがわぬ。海岸道のほうは、崖をけずつてつけた歩道で、波にあらわれながらやつと歩けるていどの、ひじょうに危険な道である。それでこの危険をさけるため、舟も利用されているが、舟入瀬がないので、なぎの日しか岸につくことができない。

このように、現在は、物資の運搬も人の背によらねばならず、開発するのはたいへんであるが、岩内から磯谷までの海岸道路が開さくされれば、面目はいつしんされて、採掘現場まで簡単にトラックをつけることができ、開発はきわめてたやすくなる。

## 2. 沿 革

この鉾床がいつ頃から発見されていたかは詳かでないが、明治40年頃といわれ、函館の人佐々木平次郎が、島野村の川崎久作と硫黄を採鋳する目的で入山した際と伝えられている。

その後、昭和15年頃から一時採掘が行われ、若干の出鋳をみたが採算ととれず、中止されたといわれ、その頃掘つた坑道とわずか貯鋳がある。

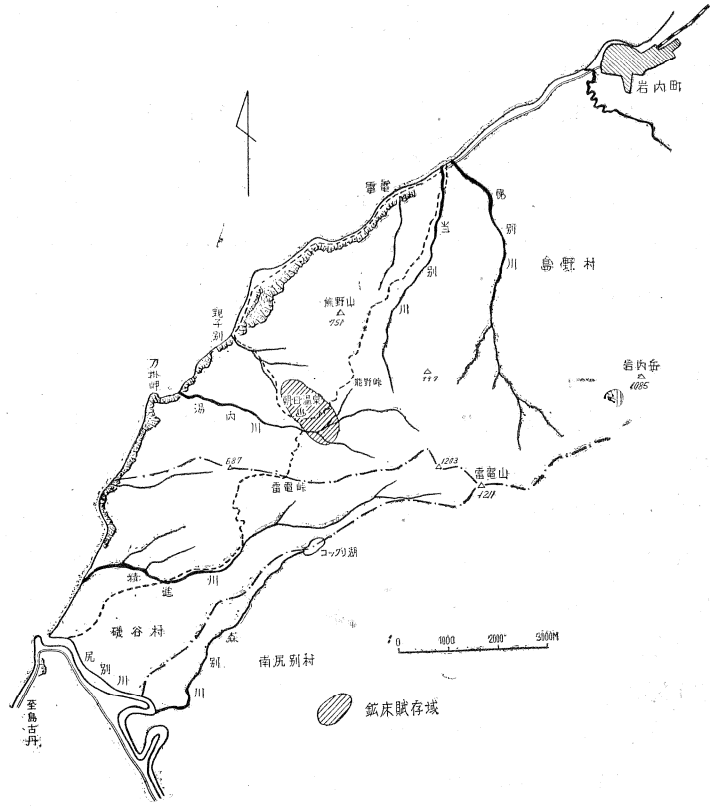
## 3. 地質および鑛床

### 地 質

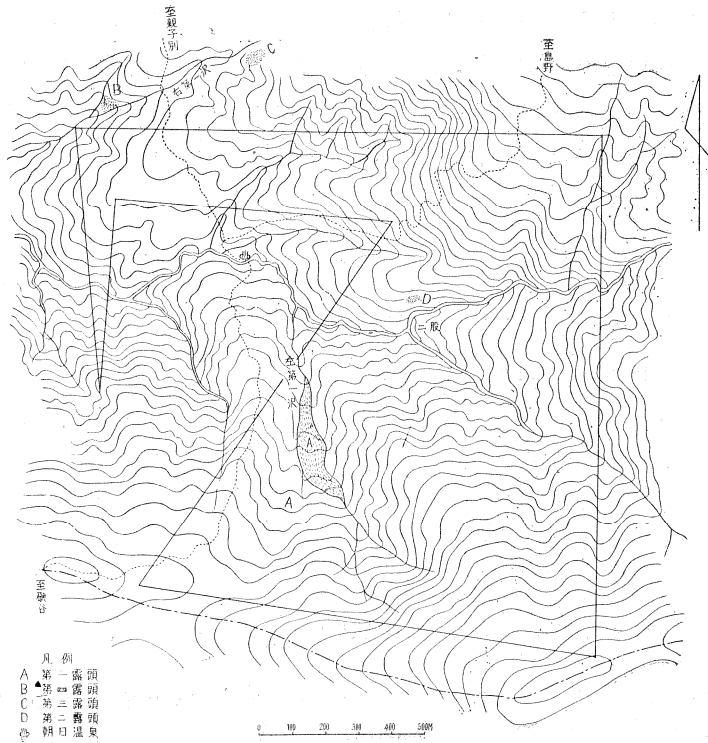
この地域の地質については、矢島澄策らが昭和14年に報告している。\*氏らによれば、鉾床が

\* 矢島澄策・古館兼治・陸川正明：10万分の1寿都図幅説明書 北海道工業試験場地質調査報告 No. 4  
(昭和14年・19)

雷電禍鉄鉱床分布図 (A)



雷電禍鉄鉱床分布図 (B)



賦存しているあたりは変朽安山岩\* を基盤とし、新しい雷電火山噴出物（集塊岩・凝灰岩・熔岩流）が広く発達している。

この変朽安山岩は原岩は角閃石石英安山岩であろうと考えられる。暗緑色の石基中に、白色にかわつた柱状の多数の斜長石斑晶（3 mm×1.5 mm 程度のものがもつとも多い）と、やや桃色をおびた少量の石英斑晶（3 m～5 m 程度）とが散在し、若干の硫化鉄鉱が鉱染している。だが断層帯などでは、変質がひどくて、斑状構造がまつたくわからないやわらかな乳白色の岩石にかわり、あるいは粘土化がすすんで、多量の黄鉄鉱が鉱染し、時にはわずかながら硫黄も鉱染していることがある。

## 鉱 床

鉱床は、変朽安山岩中に鉱染した硫化鉄鉱に由来する硫酸水が、伏流水あるいは地表水として流下し、傾斜がかわつてゆるい地形になつた山麓部の谷間や盆地で、草類・苔類などの植物群を鉄に置換してできたものである。朝日温泉を中心として（半径約 600 m の範囲内）、湯内川にさう標高 300～500 m の盆地状地形のところに賦存している。露頭は、朝日温泉の上流側に 2ヶ所、下流側に 2ヶ所、4ヶ所みとめられるが、まとまつた鉱量が期待されるのは、第 1 露頭だけと考えられる。

### 第 1 露頭

朝日温泉の南方、直距離で約 600 m のところにある。岩内・磯谷の郡境の急峻な北西斜面は、標高 400 m～500 m の附近からゆるい傾斜にかわり、湯内川の左一の沢にそつて、幅約 100 m、延長約 400 m の帯状をした盆地状地形が発達している。

第 1 露頭は、このようなところに胚胎している。表土は 1～2 m であるが、露頭延長は沢にそつて約 450 m みとめられ、幅は広いところは約 60 m あるが平均 30 m 内外である。厚さは 50 cm ないし 6 m で、平均 2～3 m と推定される。

### 第 2 露頭

湯内川二股から右の沢を約 50 m さかのぼるとみとめられる。この附近には、N 40° W 方向の断層があり、変朽安山岩化作用がとくにはげしく行われて、粘土化したり硫化鉄鉱がいちじくしく鉱染したりしている。\*\*

河床から約 20 m の高さの所に、変朽安山岩のうゑに洪積層がのつていて、そのなかに鉱床がある。河川の侵蝕で、洪積層は崩落し崖になつていたので、断面があらわれて鉱床の露頭もよく観察できる。露頭は、延長約 30 m、厚さ約 3 m でほとんど水平に分布している。幅はわからないが、昔探鉱した時には、崖から約 10 m 奥では 2～3 m、16 m 奥ではわずかあつたが

\* この変朽安山岩噴出の時期は、矢鳥らは八雲期と考えている。また根本忠寛は余別図幅中で、これに相当すると思われる変朽安山岩を八雲期末期または黒松内期初期とし、黄鉄鉱石英脈、黄銅鉱方鉛鉱閃亜鉛鉱重晶石脈などの有用鉱物を胚胎しているとのべている。だがこの考えに対しては、一般には、異論があつて訓練期のものであろうとされている。

\*\* 湯内川は、このように岩質がやわらかになり、あるいは粘土化しているので、山崩などではげしく荒廃している。砂防工事がいそがれる。

20 m 奥にはまったくなかつた。<sup>\*</sup> しかし、地形から判断すれば、この鉄床のよい所は、湯内川の荒廃によつて失われてしまつたのではなからうかと思われる。

### 第3露頭

右一の沢を、朝日温泉から親子別海岸にゆく山道が横切るところから、約200 m さかのぼるとある。河床から約20 m の山腹（標高350 m 程度のところと思われる）に、ごくわずかに露出しているにすぎないが、厚さは2 m ていどである。

### 第4露頭

右一の沢を、朝日温泉から親子別海岸にゆく山道から約150 m 降つたところにある。厚さ2 m ていどの露頭が沢の水面から約2 m 上に3 m の範囲にちよつとあらわれているだけである。

## 4. 品位および鉄量

鉄石は、草類と苔類の遺骸からなる品位50%をこえる良質の塊鉄で、まれに、カンバの枝や幹、笹などが鉄化石として保存されている。鉄石の品位をしめせば、次のようである。

採取場所	Fe	SiO <sub>2</sub>	S	P	AS	C. W.	
第1露頭	坑内鉄石	55.7	1.2	0.628	1.083	tr.	14.60
	〃	56.191	1.45	1.178	0.327	〃	12.25
	坑内掘下り鉄石	55.647	1.46	0.711	0.964	〃	15.13
	坑内掘下りの基盤との境附近の鉄石	45.733	14.20	0.632	0.232	〃	13.40
	坑内掘下り基盤岩石	16.892	61.5	0.357	0.262	〃	5.48
	坑外鉄石	54.109	5.55	0.514	0.143	〃	14.52
第4露頭	〃	54.5	3.90	0.789	0.246	〃	11.60
	鉄石	55.188	3.95	1.138	0.224	〃	5.55
	基盤岩石	10.688	58.8	0.412	0.043	〃	5.50

（昭和26年3月富士製鉄輪西工場分析）

鉄量は、4露頭を合せて最小50,000 ton の確定鉄量が算定できる。この鉄量は、地表露頭の調査だけで算定したものであるし、第1露頭のほかに、まったくの概査であるから、今後詳しい調査を行えば、鉄量は増加するものと考えられる。また、前にのべたように品位は50%をこえているが、さらに、42~43%程度の貧鉄までが稼行できるようになれば、鉄量はさらに大きくなる。

## あ と が き

(1) 岩内郡島野村の雷電朝日温泉を中心とする褐鉄鉄床は、おもに草類と苔類とを置換したFe50%をこえる良質の塊鉄である。

(2) 鉄床は、この地域に広く発達している変朽安山岩中に鉄染した硫化鉄鉄物に由来する硫酸

<sup>\*</sup> 昔探鉄した時に、人夫として働いたという者の話であるから、明らかではない。

水によつてできたもので、露頭は4ヶ所にみとめられる。

(3) もつとも大きなのは、確定鉱量 48,000 ton の第1露頭で、つぎには第3露頭附近が期待される。第2および第4露頭附近は、希望がもてない。

確定鉱量は、最小、50,000 ton が見込まれるが、今後調査をすすめてゆけば、さらに増加することが期待できる。

(4) Fe % を 42~43 程度までさげることができれば、鉱量はいつそう増加する。

(5) 交通はきわめて不便で、物質を運搬するには、すべて人の背によらなければならない。したがつて、現状では、経済的にみて稼行は困難であるが、岩内から磯谷にぬける海岸道路ができれば、きわめて有望な稼行の対象となるであろう。